令和 6 年度

施政方針

住民の皆さんに寄り添い 人・環境・未来にやさしい まちづくりをめざして

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症（以下、「感染症」）の感染症法上の位置づけが2類から5類に移行されたことに伴い、地域社会においても人と人の交流が活発化し、街角や学校などに笑顔や笑い声が広がり、人は人とのつながりの中で生きているということを再確認いたしました。私もまた、住民の皆さんと触れ合う機会に恵まれ、当たり前であった光景が再び目の前に戻ったことに感動する日々を過ごしています。

百年に一度の公衆衛生上の危機と言われた感染症を乗り越えることができたのは、医療従事者をはじめとするエッセンシャルワーカーの皆さん、住民・事業者の皆さんの他者を思いやる気持ちの賜物です。ここに、改めて心から感謝を申し上げます。

この間、役場組織をあげて、住民の皆さんの声に耳をすまし、ポストコロナ社会をともに創るために対話と協働を重ねてまいりました。令和6年度は、これまで以上に「住民の皆さんに寄り添い、人・環境・未来にやさしいまちづくり」の実現をめざす決意です。

変化する地域社会

本町は人口減少が進む基礎自治体の一つです。18歳を境に進学や就職のために転居する方々が多いということ、出生数が減少していることが主な要因となっています。静かなる有事である人口減少は、地域に大きな影響を与えています。人手不足の深刻化、空き家や廃屋の増加、消防団員の減少などは、地域コミュニティの維持を困難な状況に追い込みます。さらに、人口減少・超高齢化社会などの構造的な課題に加えて、2年前のロシアのウクライナ侵攻を起因とする経済情勢の悪化により、電力やガス料金の価格高騰を引き起こし、現在では物価が全体的に高騰している状況となっています。

一方で、住民・事業者の皆さんにおかれましては、厳しい状況下にもかかわらず、地域課題を解決する努力や地域の魅力や可能性を高める挑戦を重ねられておられます。勇気を出して踏み出す一歩は、いつの時代でも尊いものです。地域の動向に目を凝らしていると、その一歩が人の心を動かしていると感じる場面に直面することもあり、心を打たれます。

めまぐるしく変化する社会経済情勢の中で、住民の皆さんの行政に対するニーズは複雑かつ多様化しております。これらに対応するためには、与謝野町役場においても、限られた行政資源を賢く分配することが求められているとともに、自治区・地域団体・地域内外の非営利活動をはじめとする法人などとの連携を強化する必要性がますます高まっております。

令和の時代に地方自治に携わる私たちに託された問いは、「連携による大きな社会をいかに創りあげるのか」です。

与謝野町のめざす姿

令和6年度を「住民の皆さんに寄り添い、人・環境・未来にやさしいまちづくりを実現する年」と位置付けました。変化する地域社会の実情を的確に捉え、住民の皆さんをはじめ、大きな社会づくりに共感・参画してくださるすべての皆さんと連携することにより、その実現をめざします。

そのために重要なのは、やはり第2次与謝野町総合計画の基本構想で示した、「みんなの手でまちづくりを進めること」「将来世代のためにも未来志向のまちづくりを進めること」「みんなにとってみえるまちづくりを進めること」だと認識しております。

合併以降、「水・緑・空 笑顔かがやくふれあいのまち」をスローガンに、私たちは美しい水と緑、澄んだ空に代表される自然との調和を大切にしながら、一人ひとりの笑顔がかがやく、触れ合い豊かなまちをめざしてきました。この想いを尊重しつつ、第2次与謝野町総合計画では「人・自然・伝統与謝野で織りなす新たな未来」を未来像に掲げております。これには、経糸と緯糸が交わり風合い豊かな丹後ちりめんが織りなされていくように、自然と伝統が交わりながら、まちの主人公である住民一人ひとりが本町の新たな未来を創るという意味が込められています。

令和6年度は、町ホームページからご覧いただけます。

令和6年度

7つの分野別方針

産業・仕事に寄り添う

それぞれの産業を新しいステージに乗せていくための第一歩を踏み出します。

交流・移住定住に寄り添う

先人たちから受け継いだ交流の歩みを尊重し、さらなる発展をめざして取り組むと同時に、新たな交流も開始します。

健康・福祉に寄り添う

一人ひとりの多様な個性が尊重され、地域社会で真に安心して暮らせるまちとなるよう、孤独・孤立・自殺・認知症・LGBTQ に関連する対策をより一層進めます。

子ども・子育てに寄り添う

長年の懸案事項のひとつでもある野田川地域の認定こども園の整備事業を推進します。

教育・スポーツ・文化活動に寄り添う

学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、演劇的手法による学びを取り入れ、その育成を図っていきます。

環境・暮らしに寄り添う

環境・暮らしに寄り添い、美しくて住みやすい安心安全なまちをつくっていくためには道路や河川、橋梁、上下水道などの社会基盤整備や消防力の維持が重要となりますが、財源確保に努めながら計画的に投資を進めます。

対話による協働のまちづくり・行財政運営の構築

これまで実施してきた取り組みを与謝野町役場に集うすべての職員で共有し、さらに深化させることで、未来にもやさしいまちづくりを進めます。

※ 令和６年度施政方針から抜粋。また、広報紙用に編集しています